

## 第1章

# 首都圏をめぐる最近の動向

～活力ある健康長寿社会に向けた首都圏における取組～

## はじめに

我が国は、平成20(2008)年に人口のピークを迎え、人口減少局面に入っている。平均寿命は男女とも延伸し、世界でもトップクラスの長寿国となっており、急速な人口減少・少子高齢化が進んでいる。首都圏においても、今後（令和2(2020)年以降）人口減少局面に転じ、これに併せ、高齢化が急速に進行すると予想されている中、単に長く生きるだけでなく、誰もが安心して生活ができ、かつ、健康で生きがいのある生活を送ることができる健康長寿社会を築くことが、非常に重要な課題となっている。

このような状況を踏まえ、高齢者の暮らしに必要な生活機能等を確保し、高齢者の生活を支援する「高齢化社会に対応したまちづくり・都市機能の確保」、高齢者だけでなく若者や子育て世帯等を含めた多世代が交流するなど、生きがいを感じる活力ある場を創出する「多世代交流、高齢者の社会参画による生きがいづくり」、高齢者に適切な運動や食生活を促す等により、健康寿命の延伸等を図る「健康増進の取組（健康寿命の延伸等）」といった取組が、官民の連携、公的不動産やICTの活用など様々な工夫を施しながら各地で行われている。

本報告第1章においては、「活力ある健康長寿社会に向けた首都圏における取組」と題し、首都圏におけるこれらの取組に関する状況や様々な工夫を施した事例について整理・分析を行い、更なる取組の横展開を促すことを目的に、報告を行う。